

中小企業景況調査報告書 (福井県商工会地域)

令和4年7月～9月実績

令和4年10月～12月見通し

福井県商工会連合会

I. 景況調査の概要

1. 調査目的 この調査は、経営指導員による訪問面接調査により福井県商工会地域中小企業の経済動向について一定時期ごとに迅速・的確に収集、提供して、経営改善普及事業を効果的に実施するものです。
2. 調査方法 経営指導員による訪問面接調査
3. 対象地区 あわら市、坂井市、永平寺町、福井東、福井北、福井西、越前町、越前市（池田町）、南越前町、わかさ東、おおい町（高浜町）の計11商工会
4. 対象企業数 165企業（1商工会15企業）
5. 回答企業数 165企業（回答率100%）
6. 調査対象期間 令和4年7～9月期実績及び令和4年10～12月期見通し
7. 調査時点 令和4年9月1日（木）
8. 回答企業内訳

	調査対象企業数		有効回答企業数		有効回答率 (%)
製造業	38	23.0%	38	23.0%	100.0%
建設業	24	14.5%	24	14.5%	100.0%
小売業	51	30.9%	51	30.9%	100.0%
サービス業	52	31.5%	52	31.5%	100.0%
合計	165	100.0%	165	100.0%	100.0%

9. DI値（ディフュージョン・インデックス、景気動向指数）

企業の景気動向を示す指標です。各調査項目について〈増加・上昇・好転〉の割合からDI値がプラスなら強気（楽観）、マイナスなら弱気（悲観）となります。

$$DI（数式） = （上昇企業数 - 低下企業数） \div 回答企業数 \times 100$$

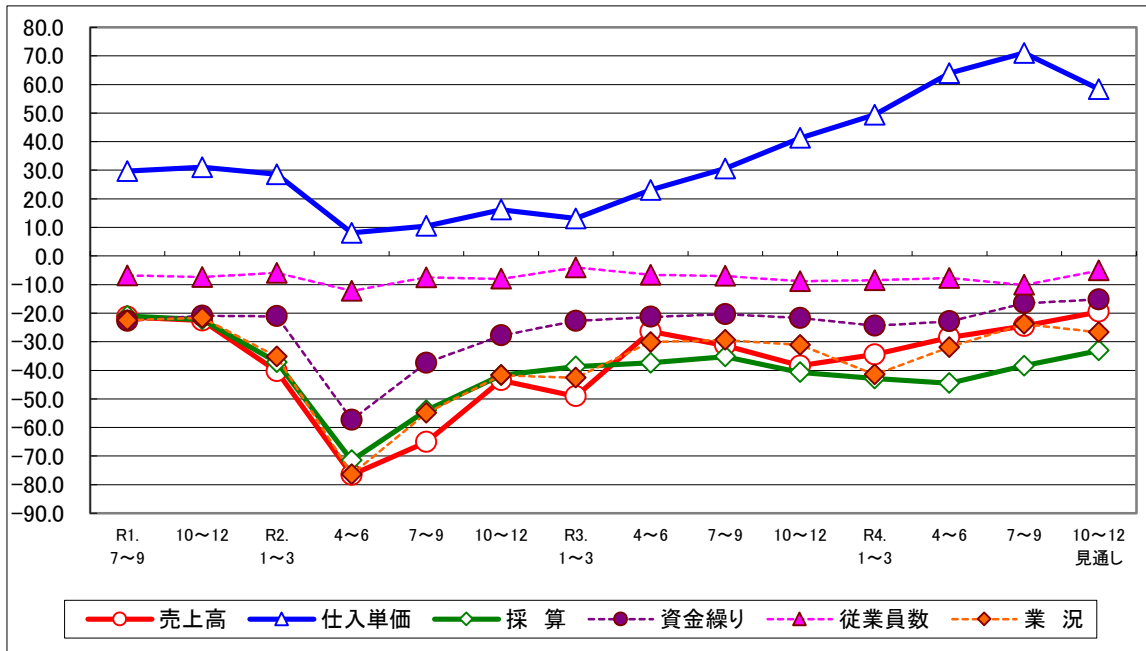
10. 分析執筆者 福井県立大学 地域経済研究所長 所長 南保 勝 氏

全体(福井県商工会地域中小企業)の景況

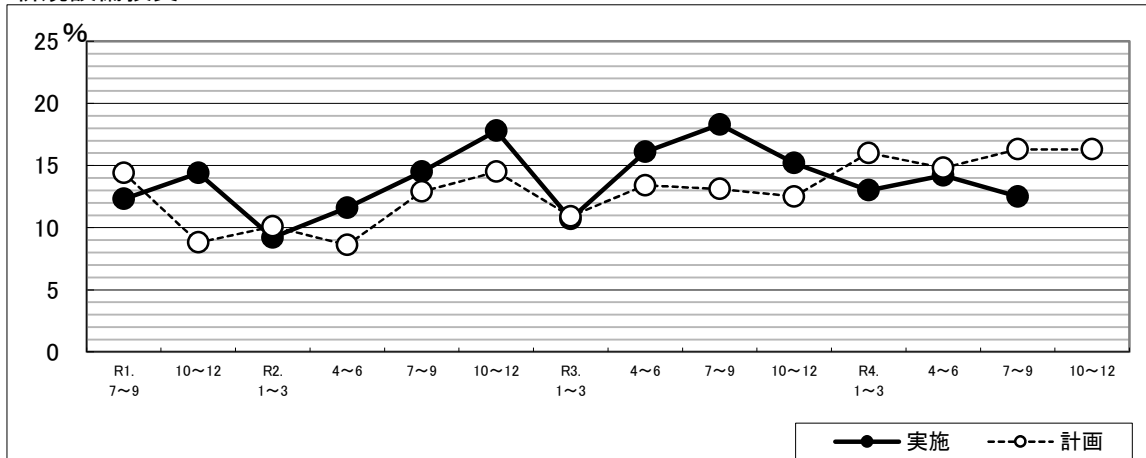
景気動向推移(前年同期比:DI値)

期別/項目別	売上高	仕入単価	採算	資金繰り	従業員数	業況
R1.7~9	▲ 21.3	29.7	▲ 21.0	▲ 22.7	▲ 6.8	▲ 22.5
10~12	▲ 22.6	31.0	▲ 22.2	▲ 20.9	▲ 7.4	▲ 21.6
R2.1~3	▲ 40.3	28.6	▲ 37.2	▲ 21.1	▲ 5.9	▲ 35.2
4~6	▲ 76.6	8.1	▲ 71.5	▲ 57.3	▲ 12.2	▲ 76.4
7~9	▲ 65.1	10.5	▲ 54.0	▲ 37.4	▲ 7.5	▲ 54.9
10~12	▲ 43.5	16.2	▲ 41.7	▲ 27.8	▲ 8.0	▲ 41.7
R3.1~3	▲ 49.1	13.1	▲ 38.7	▲ 22.7	▲ 4.0	▲ 42.6
4~6	▲ 26.4	23.1	▲ 37.4	▲ 21.3	▲ 6.6	▲ 30.1
7~9	▲ 31.3	30.6	▲ 35.2	▲ 20.4	▲ 7.0	▲ 29.4
10~12	▲ 38.4	41.3	▲ 40.7	▲ 21.7	▲ 8.8	▲ 31.1
R4.1~3	▲ 34.5	49.4	▲ 42.9	▲ 24.4	▲ 8.5	▲ 41.5
4~6	▲ 28.5	64.0	▲ 44.5	▲ 22.9	▲ 7.7	▲ 31.9
7~9	▲ 24.5	71.0	▲ 38.4	▲ 16.5	▲ 10.1	▲ 23.8
10~12見通し	▲ 19.5	58.4	▲ 33.1	▲ 15.2	▲ 5.1	▲ 26.7

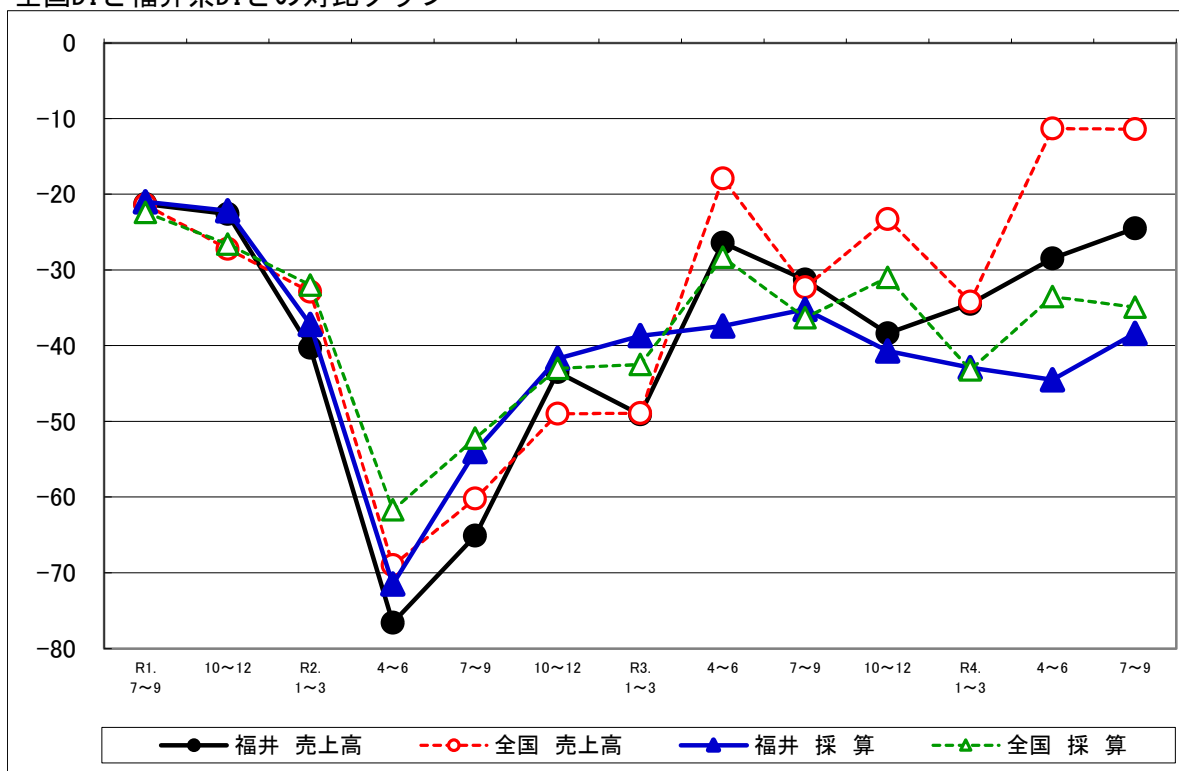
※仕入単価はプラスになるほど悪化となります。



新規設備投資



全国DIと福井県DIとの対比グラフ



全体の景況

R4年7-9月期の福井県経済を概観すると、需要面では、いまだ新型コロナウイルス感染症の影響がみられるものの、ドラッグストア販売が順調、コンビニエンスストア販売も堅調にあるほか、温泉地や観光地などの入込も持ち直しつつある。供給面でも、輸送機械（自動車）や繊維製品などで足踏みの状況となっているものの、スマートフォン需要を中心に主力の電子部品・デバイスが堅調であるほか、化学も合成樹脂等の化学製品を中心に緩やかに持ち直しつつある。ただ、先行きについては、感染症は無論、ウクライナ情勢の長期化や中国における経済活動の抑制の影響などが懸念される中でのエネルギー・原材料価格の上昇や供給面での制約には十分注意する必要がある。

こうした状況下、今期（R4年7-9月期）の景況調査をみると、全体では景況感を示すDI値6項目中4項目で改善傾向を示しており、県内企業の景況感が持ち直しつつあることをうかがわせる。項目ごとのDI値をみると、売上高が前期▲28.5→今期▲24.5へ、採算が前期▲44.5→今期▲38.4へ、資金繰りが前期▲22.9→今期▲16.5へ、業況が前期▲31.9→今期▲23.8へと改善。悪化した項目は、仕入単価（逆指数）の64.0→71.0、従業員数の前期▲7.7→今期▲10.1であった。先行き（R4年10-12月期）については、業況を除く5項目で改善予想が立てられている。

一方、売上高と採算のDI値を全国と比較すると、全国が前期比で僅かながら売上高、採算ともに悪化する中、福井県企業では売上高、採算ともに改善傾向を示すなど、福井県企業の景況感は全国に比べ改善傾向が強く現れている。

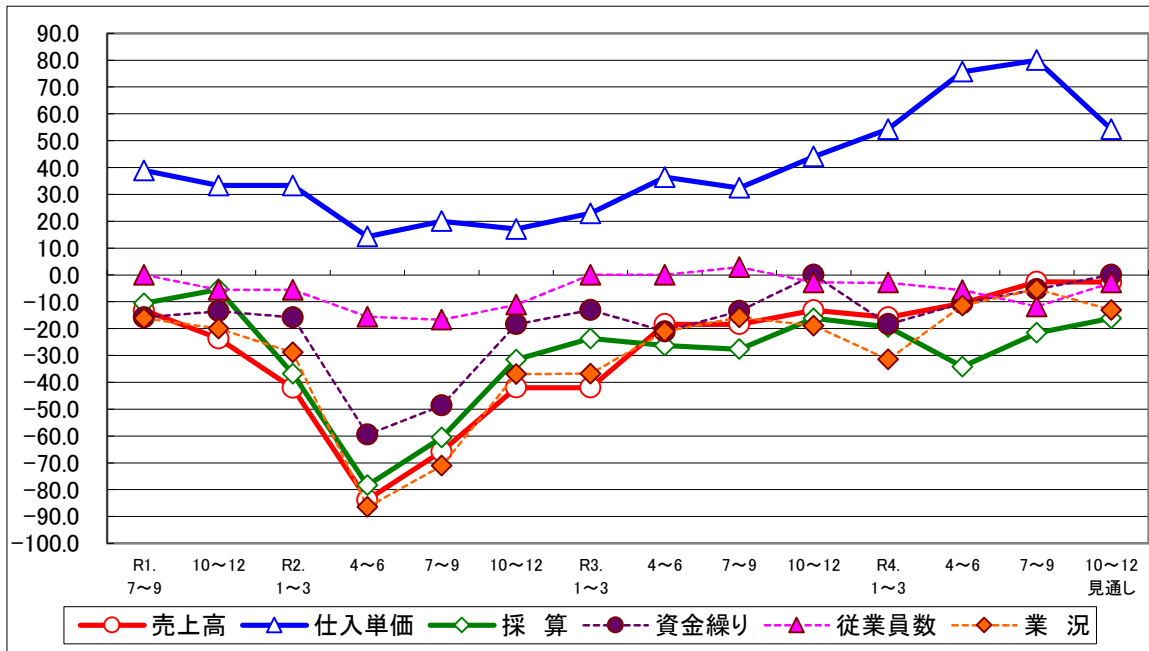
そのほか、今期の新規設備投資については、設備投資を計画した企業16.3%に対し実施した企業8.6%と低調な動きとなったものの、先行き（R4年10-12月期）については、何らかの投資計画を持つ企業が13.7%を示し、投資マインドの増加が期待される。

製造業(福井県商工会地域中小企業)の景況

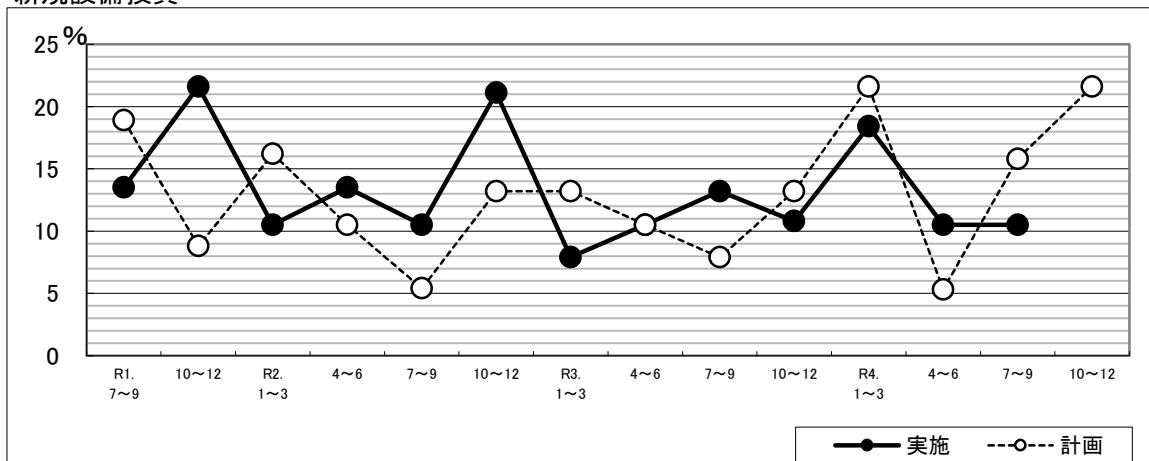
景気動向(前年同期比:DI値)

期別/項目別	売上高	仕入単価	採算	資金繰り	従業員数	業況
R1.7~9	▲ 13.2	38.9	▲ 10.6	▲ 15.8	0.0	▲ 16.2
10~12	▲ 23.7	33.3	▲ 5.4	▲ 13.5	▲ 5.6	▲ 20.0
R2.1~3	▲ 42.1	33.3	▲ 36.8	▲ 15.8	▲ 5.6	▲ 28.9
4~6	▲ 83.8	14.3	▲ 78.4	▲ 59.5	▲ 15.6	▲ 86.5
7~9	▲ 65.8	20.0	▲ 60.6	▲ 48.7	▲ 16.7	▲ 71.1
10~12	▲ 42.0	17.1	▲ 31.6	▲ 18.4	▲ 11.1	▲ 36.9
R3.1~3	▲ 42.0	22.9	▲ 23.7	▲ 13.1	0.0	▲ 36.8
4~6	▲ 18.4	36.4	▲ 26.3	▲ 21.1	0.0	▲ 21.1
7~9	▲ 18.4	32.4	▲ 27.7	▲ 13.5	2.9	▲ 15.8
10~12	▲ 13.2	44.1	▲ 16.2	0.0	▲ 2.8	▲ 18.9
R4.1~3	▲ 15.8	54.3	▲ 19.4	▲ 18.4	▲ 2.9	▲ 31.5
4~6	▲ 10.5	75.7	▲ 34.2	▲ 10.6	▲ 5.7	▲ 11.4
7~9	▲ 2.6	80.0	▲ 21.6	▲ 5.3	▲ 11.8	▲ 5.3
10~12見通し	▲ 2.7	54.3	▲ 16.2	0.0	▲ 2.9	▲ 13.1

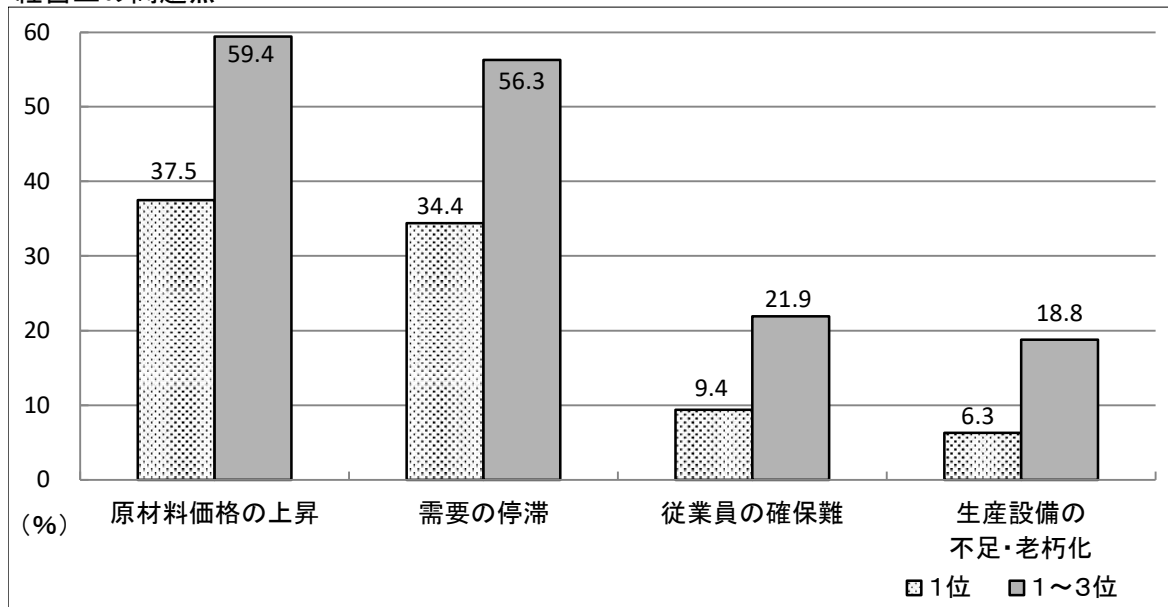
※仕入単価はプラスになるほど悪化となります。



新規設備投資



経営上の問題点



調査企業の声

- ・前期に比べて注文が落ち込んでいる。コロナ禍以外にも物価高の影響があるように感じる。
- ・今期は長期の量産があり売上も伸びているが、10月以降の見通しが立たないため先が見えない。ただコロナ前より引き合いは活発になりつつあり、業界全体が動き始めていると感じる。
- ・未だコロナが人の動きを鈍化させているためこれからどこまで元に戻るかは未知数である。業況好転の兆しはあるが、波があるため楽観視できない。

製造業の景況

最近の県内製造業を概観すると、繊維工業が、衣料、衣料品以外の資材関係ともに足踏み状況にあるほか、輸送機械、非鉄金属も持ち直しの動きに一服感がみられる。しかし、主力の電子部品・デバイスで、スマートフォン向けを中心に持ち直しつつあるほか、化学、眼鏡枠・部品についても持ち直しつつあることなどから、全体でも持ち直している。

こうした中、今期（R4年7-9月期）の景況調査をみると、全体では景況感を示すDI値6項目中4項目が改善傾向、残り2項目で悪化傾向となった。引き続き、ウクライナ侵攻の長期化による世界経済への不安感、エネルギー・原材料価格の上昇、供給制約等の問題、さらに円安傾向が福井県企業に大きな影響を与えていることが懸念される。

各項目のDI値をみると、売上高が前期▲10.5→今期▲2.6へ、採算が前期▲34.2→今期▲21.6へ、資金繰りが前期▲10.6→今期▲5.3へ、業況が前期▲11.4→今期▲5.3へと改善。一方、仕入単価（逆指数）が前期75.7→今期80.0へ、従業員数が前期▲5.7→今期▲11.8へと悪化している。これらの結果から、県内製造業では仕入単価の上昇と雇用確保に苦しんでいる姿が読み取れる。先行き（R4年10-12月期）については、6項目中、売上高の横這い、業況の悪化傾向を除く4項目で改善予想となった。

一方、新規設備投資の状況については、計画の15.8%に対し実施が10.5%となるなど、実施が計画を下回っている。また、先行き（R4年10-12月期）については、何らかの投資を予定する企業が21.6%を示し、投資マインドの増幅が期待できる。

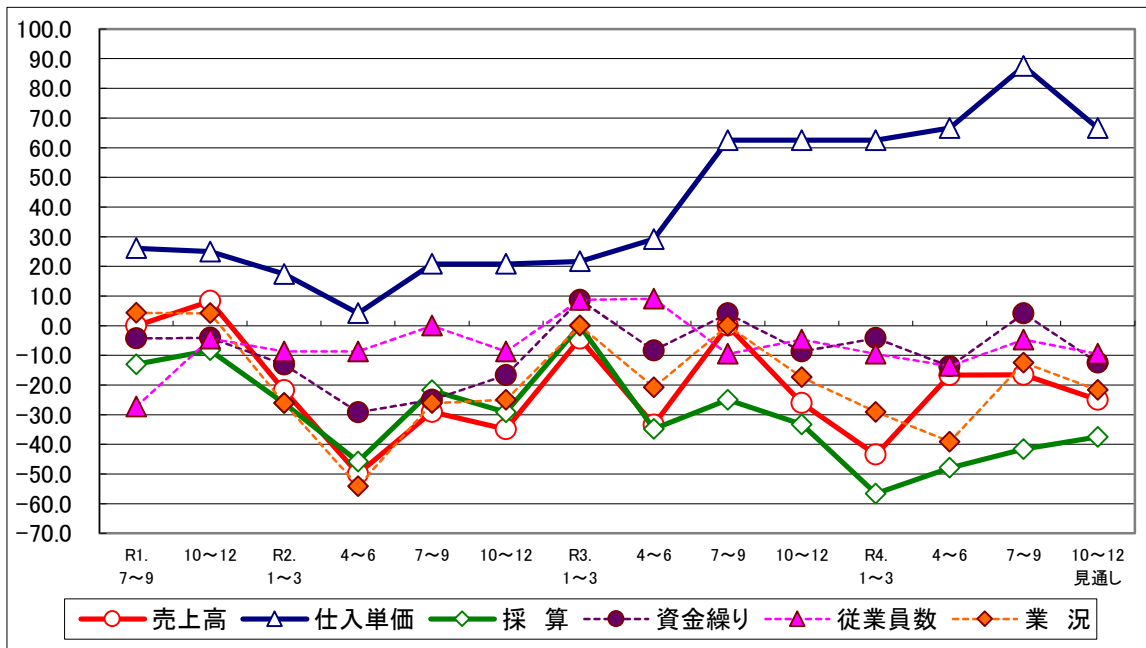
最後に、経営上の問題点については、1位に挙げた企業ウエイトが「原材料価格の上昇」で最も多く37.5%（1位～3位までに挙げた企業59.4%）を占めた。個別の見解としては、「コロナ禍以外にも物価高の影響があるように感じる」、「業況好転の兆しはあるが、波があるため楽観視できない」など厳しい見解が目立っている。

建設業(福井県商工会地域中小企業)の景況

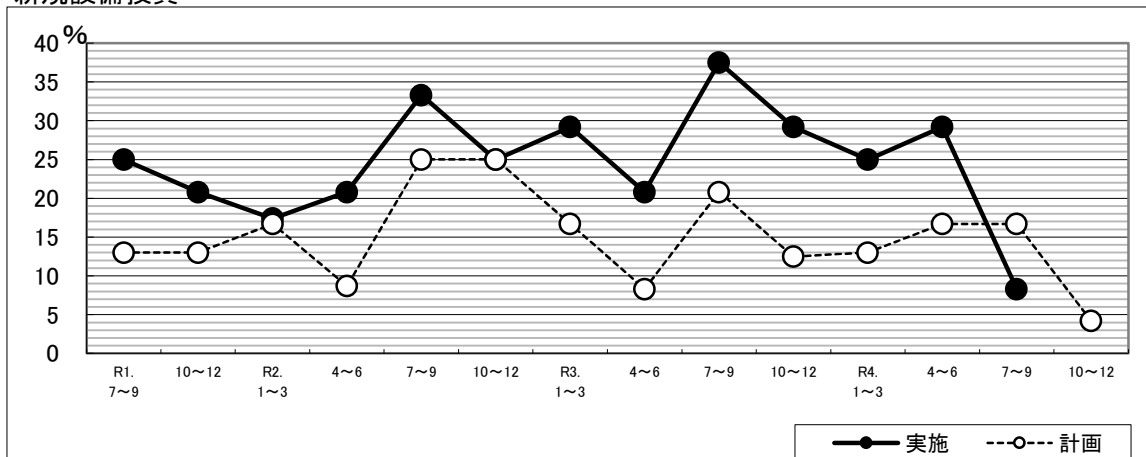
景気動向(前年同期比:DI値)

期別/項目別	売上高	仕入単価	採算	資金繰り	従業員数	業況
R1.7~9	0.0	26.1	▲ 13.0	▲ 4.3	▲ 27.3	4.3
10~12	8.3	25.0	▲ 8.3	▲ 4.1	▲ 4.4	4.2
R2.1~3	▲ 21.8	17.4	▲ 26.1	▲ 13.1	▲ 8.7	▲ 26.1
4~6	▲ 49.9	4.2	▲ 45.8	▲ 29.2	▲ 8.7	▲ 54.1
7~9	▲ 29.1	20.8	▲ 21.8	▲ 25.0	0.0	▲ 26.1
10~12	▲ 34.9	20.8	▲ 29.2	▲ 16.7	▲ 8.7	▲ 25.0
R3.1~3	▲ 4.4	21.7	0.0	8.7	8.7	0.0
4~6	▲ 33.4	29.2	▲ 34.8	▲ 8.4	9.1	▲ 20.8
7~9	0.0	62.5	▲ 25.0	4.1	▲ 9.5	0.0
10~12	▲ 26.1	62.5	▲ 33.3	▲ 8.7	▲ 4.7	▲ 17.4
R4.1~3	▲ 43.5	62.5	▲ 56.6	▲ 4.2	▲ 9.5	▲ 29.1
4~6	▲ 16.7	66.6	▲ 47.9	▲ 13.7	▲ 13.6	▲ 39.1
7~9	▲ 16.6	87.5	▲ 41.6	4.1	▲ 4.7	▲ 12.5
10~12見通し	▲ 25.0	66.6	▲ 37.5	▲ 12.5	▲ 9.5	▲ 21.7

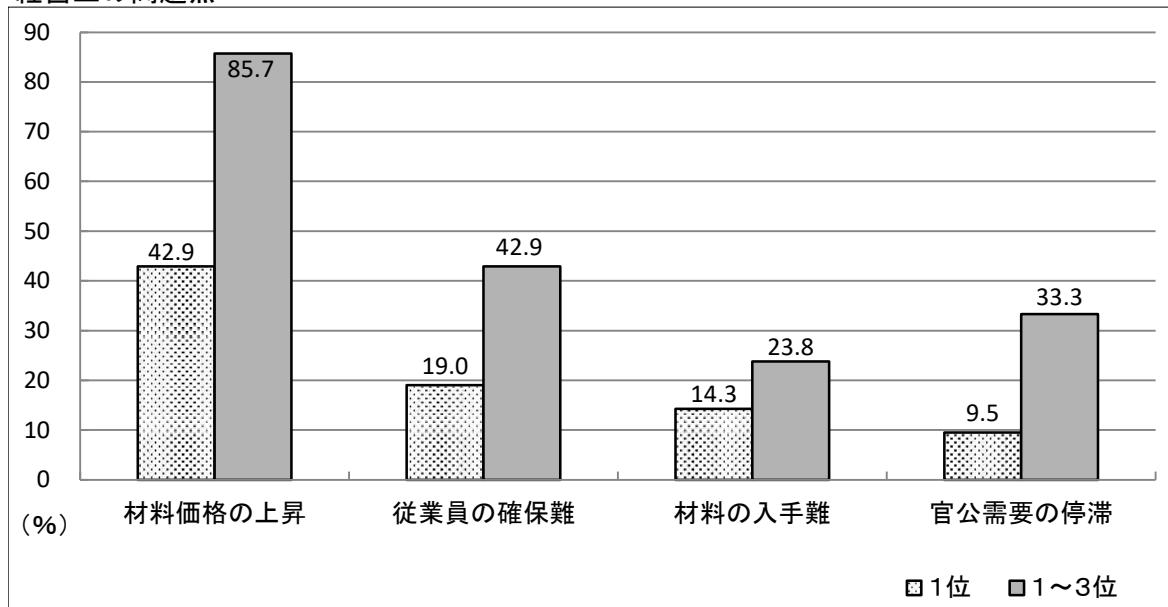
※仕入単価はプラスになるほど悪化となります。



新規設備投資



経営上の問題点



調査企業の声

- ・材料の価格が3%程度増加し、経営を圧迫している。
- ・コロナ禍において公共事業の発注が減っているものの、雨による災害が増加したためその工事が発注され何とか業況を保っている。
- ・資材単価の上昇が大きく、前年度に見積もりをした物件は総じて採算が悪化している。

建設業の景況

福井県内におけるR4年度（R4年7～9月期）の公共工事発注状況（資料：東日本建設業保証株式会社）をみると、請負金額は累計で1,048億7百万円の前年同期比8.8%の減少、発注件数は同2,156件の同6.7%の増加となっている。これを主な発注者別でみると、福井県関連工事が310億96百万円の前年同期比20.6%増となったものの、独立行政法人等関連工事が285億77百万円の同35.7%減となるなど、前期を割り込む事業が目立っている。一方、住宅投資については、R3年4～7月の累計で、前年同期比1.1%増の1,691戸であった。利用関係別では、主力の持家が前年同期比9.3%減の840戸、貸家が同23.5%増の693戸となっている。住宅業界では、引き続き木材価格の高騰とともに住宅部材の品薄傾向が続いており、今後の住宅投資の下振れには留意する必要がある。

ただ、今回の景況調査をみると、景況感を示すDI値6項目のうち仕入単価を除く5項目で改善傾向を示している。各項目別のDI値をみると、売上高が前期▲16.7→今期▲16.6、仕入単価（逆指数）が前期66.6→今期87.5、採算が前期▲47.9→今期▲41.6、資金繰りが前期▲13.7→今期4.1、従業員数が前期▲13.6→今期▲4.7、業況が前期▲39.1→今期▲12.5となっている。また、先行き（R4年10～12月期）については、改善予想が2項目にとどまり、依然として厳しい経営環境が続くことが予想される。

一方、今期の新規設備投資については、計画した企業16.7%に対し実施した企業が8.3%にとどまったほか、先行き（R4年10～12月期）についても、何らかの投資計画を持つ企業が4.2%に低下し、依然として低調な投資マインドが続くものと思われる。

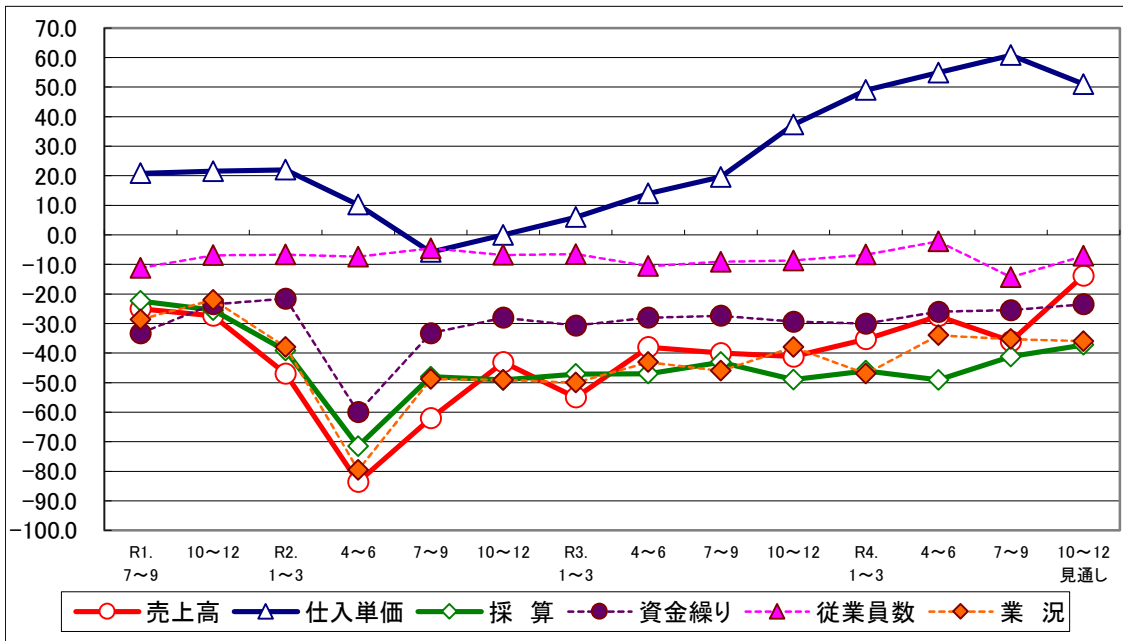
最後に、経営上の問題点については、1位に挙げた企業ウエイトが「材料価格の上昇」で最も多く42.9%（1位～3位に挙げた企業85.7%）を占めた。次いで、「従業員の確保難」、「材料の入手難」が続いている。その他の見解としては、「材料の価格が3%程度増加し、経営を圧迫している」、「資材単価の上昇が大きく、前年度に見積もりをした物件は総じて採算が悪化している」など、材料価格の高騰、取得難に関連する課題が多く聞かれた。

小売業(福井県商工会地域中小企業)の景況

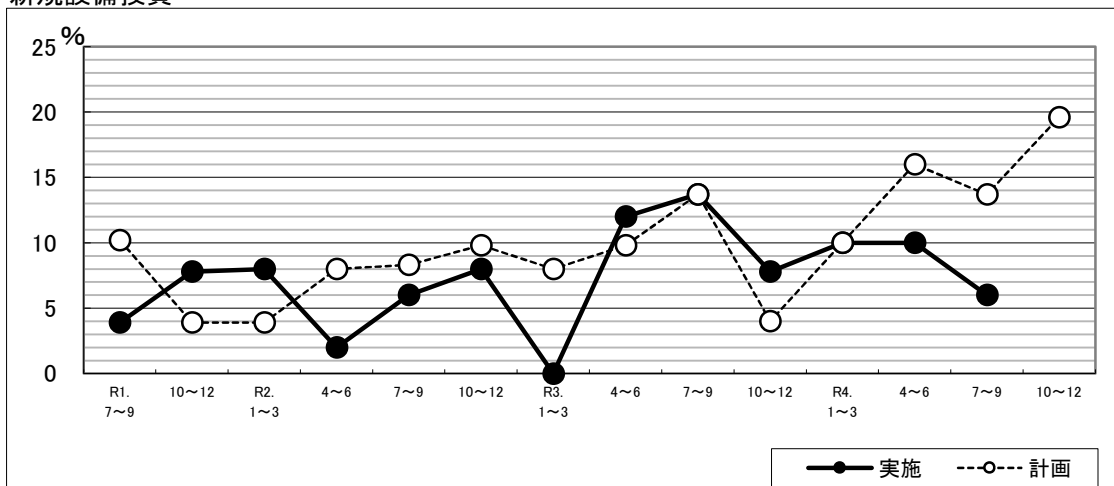
景気動向(前年同期比:DI値)

期別/項目別	売上高	仕入単価	採算	資金繰り	従業員数	業況
R1.7~9	▲ 25.0	20.8	▲ 22.4	▲ 33.3	▲ 11.2	▲ 28.6
10~12	▲ 27.4	21.5	▲ 25.5	▲ 23.5	▲ 6.9	▲ 22.0
R2.1~3	▲ 47.0	22.0	▲ 39.2	▲ 21.6	▲ 6.7	▲ 38.0
4~6	▲ 83.6	10.2	▲ 71.5	▲ 60.0	▲ 7.4	▲ 79.6
7~9	▲ 62.0	▲ 5.8	▲ 48.0	▲ 33.3	▲ 4.6	▲ 48.8
10~12	▲ 43.1	0.0	▲ 49.1	▲ 28.0	▲ 6.8	▲ 49.1
R3.1~3	▲ 55.0	6.0	▲ 47.1	▲ 30.7	▲ 6.5	▲ 50.0
4~6	▲ 38.0	14.0	▲ 47.0	▲ 28.0	▲ 10.6	▲ 43.1
7~9	▲ 40.0	19.6	▲ 43.1	▲ 27.4	▲ 9.1	▲ 46.0
10~12	▲ 41.2	37.3	▲ 49.0	▲ 29.4	▲ 8.7	▲ 38.0
R4.1~3	▲ 35.3	49.0	▲ 46.0	▲ 30.0	▲ 6.7	▲ 47.0
4~6	▲ 27.5	54.9	▲ 49.1	▲ 26.0	▲ 2.2	▲ 34.0
7~9	▲ 36.0	60.8	▲ 41.2	▲ 25.5	▲ 14.3	▲ 35.3
10~12見通し	▲ 13.8	51.0	▲ 37.2	▲ 23.5	▲ 7.1	▲ 36.0

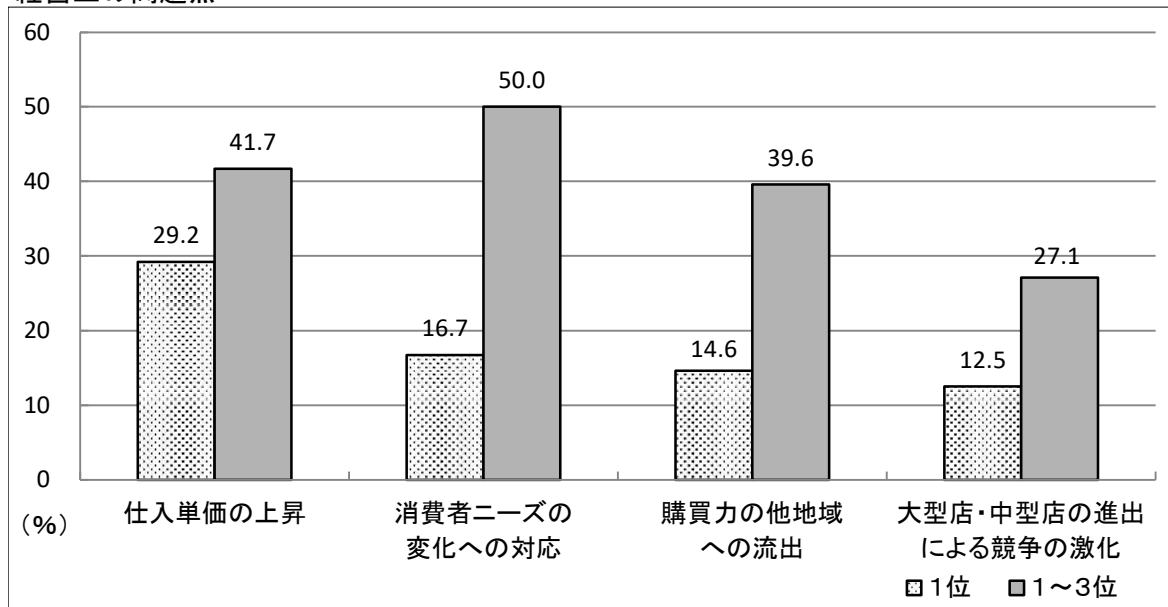
※仕入単価はプラスになるほど悪化となります。



新規設備投資



経営上の問題点



調査企業の声

- ・仕入れの値上げ幅が大きく、価格転嫁が出来ておらず利益の低下となっている。
- ・コロナの影響により展示会等がなくなり、店頭以外で商品を販売する機会を失った。サービス仕事はあるが営業ができないため、業況は悪い。
- ・売上が減少傾向にあるので、新たな販路や売り方の改善が必要となっている。

小売業の景況

最近の小売商況を概観すると、大型店・スーパー販売に厳しさが残るものの、ホームセンター、家電販売などが横這いで推移する中、ドラッグストア販売が順調に推移、コンビニエンスストア販売も堅調を維持するなどから、県内小売商況は概ね持ち直している。ただ、業態間の格差は否めない。ちなみに、近畿経済産業局が公表するR4年8月の県内大型店売上高（百貨店＋スーパー、全店ベース）（速報値）をみると、飲食料品の不冴えに加え、家具・家電製品の不振などから、前年同月比3.7%減少し、70億84百万円と、3か月連続の前年割れとなった。

こうした中、今回の景況調査では、景況感を示すDI値6項目中4項目で悪化傾向を示している。ちなみに、項目別の状況をみると、売上高が前期▲27.5→今期▲36.0、仕入単価（逆指数）が前期54.9→今期60.8、採算が前期▲49.1→今期▲41.2、資金繰りが前期▲26.0→今期▲25.5、従業員数が前期▲2.2→▲14.3、業況が前期▲34.0→今期▲35.3となっている。先行き（R4年10-12月期）については、業況を除く5項目で改善予想となった。

一方、新規設備投資の状況については、今期、計画の13.7%に対し実施は6.0%と低調な推移となった。先行き（R4年10-12月期）については、何らかの投資を計画する企業ウエイトが19.6%となり、投資マインドの上昇が期待できる。

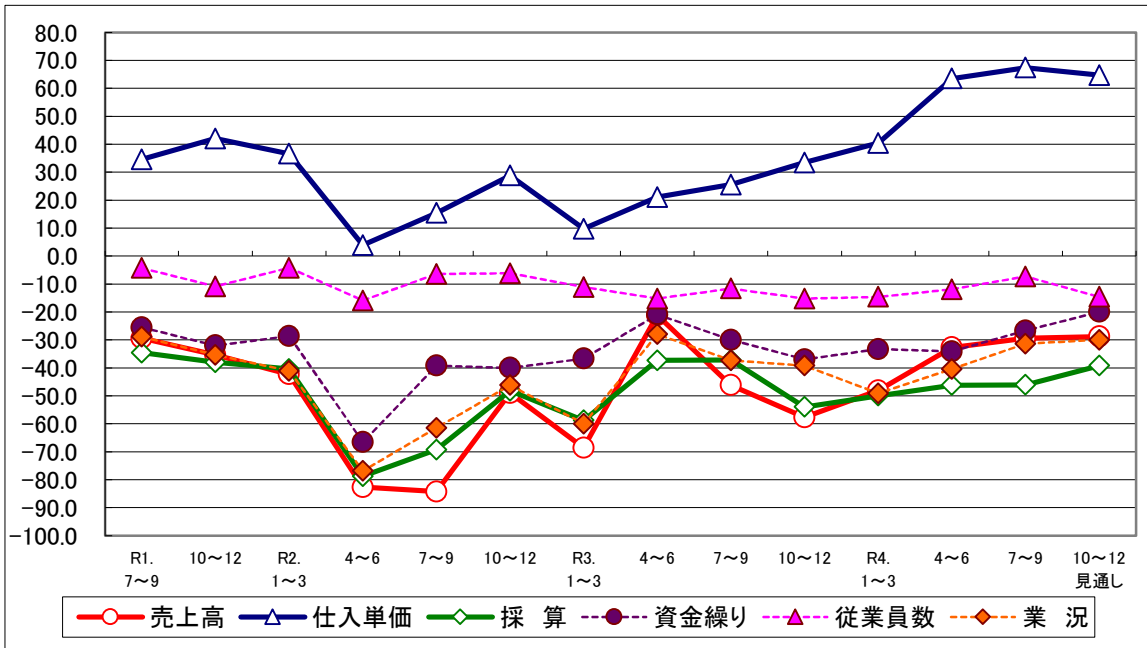
最後に、経営上の問題点については、「仕入単価の上昇」が最も多く、1位に挙げた企業ウエイト29.2%、1位～3位までに挙げた企業41.7%となった。その他の見解としては、「仕入れの値上げ幅が大きく、価格転嫁が出来ておらず利益の低下となっている」、「コロナの影響により展示会等がなくなり、店頭以外で商品を販売する機会を失った」など、悲観的な声が多い。

サービス業(福井県商工会地域中小企業)の景況

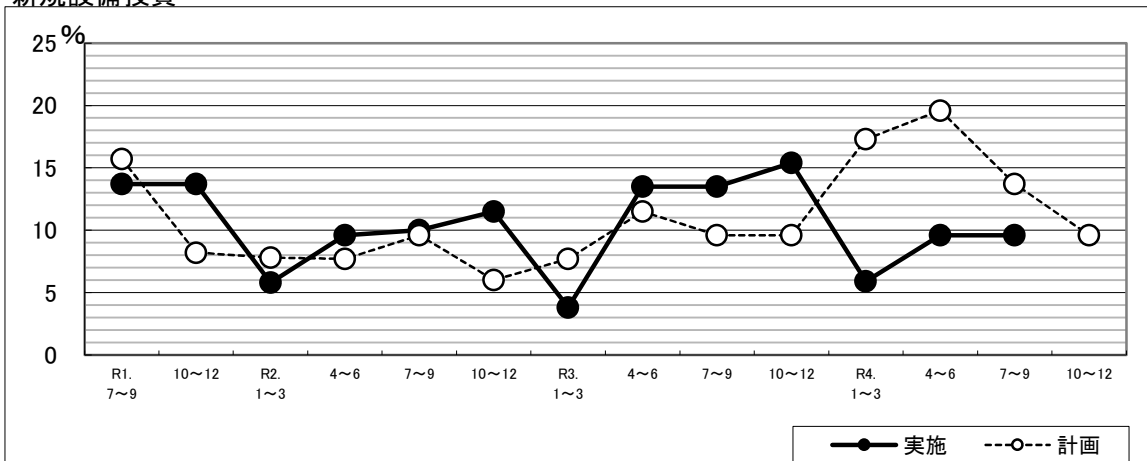
景気動向(前年同期比:DI値)

期別/項目別	売上高	仕入単価	採算	資金繰り	従業員数	業況
R1.7~9	▲ 29.4	34.6	▲ 34.6	▲ 25.5	▲ 4.3	▲ 28.9
10~12	▲ 35.3	42.0	▲ 38.0	▲ 32.0	▲ 10.9	▲ 35.4
R2.1~3	▲ 42.3	36.6	▲ 40.4	▲ 28.6	▲ 4.2	▲ 41.1
4~6	▲ 82.7	3.9	▲ 78.8	▲ 66.6	▲ 15.9	▲ 76.9
7~9	▲ 84.3	15.4	▲ 69.3	▲ 39.2	▲ 6.4	▲ 61.5
10~12	▲ 49.0	28.8	▲ 48.2	▲ 40.0	▲ 6.2	▲ 46.2
R3.1~3	▲ 68.6	9.7	▲ 58.8	▲ 36.7	▲ 11.1	▲ 60.0
4~6	▲ 21.2	21.1	▲ 37.3	▲ 20.9	▲ 15.2	▲ 28.0
7~9	▲ 46.2	25.5	▲ 37.2	▲ 30.0	▲ 11.6	▲ 37.3
10~12	▲ 57.7	33.4	▲ 54.0	▲ 37.0	▲ 15.2	▲ 39.2
R4.1~3	▲ 48.1	40.4	▲ 50.0	▲ 33.3	▲ 14.6	▲ 49.1
4~6	▲ 32.7	63.5	▲ 46.2	▲ 34.1	▲ 11.9	▲ 40.4
7~9	▲ 29.4	67.4	▲ 46.1	▲ 26.7	▲ 7.3	▲ 31.4
10~12見通し	▲ 28.8	64.7	▲ 39.2	▲ 20.0	▲ 14.6	▲ 30.0

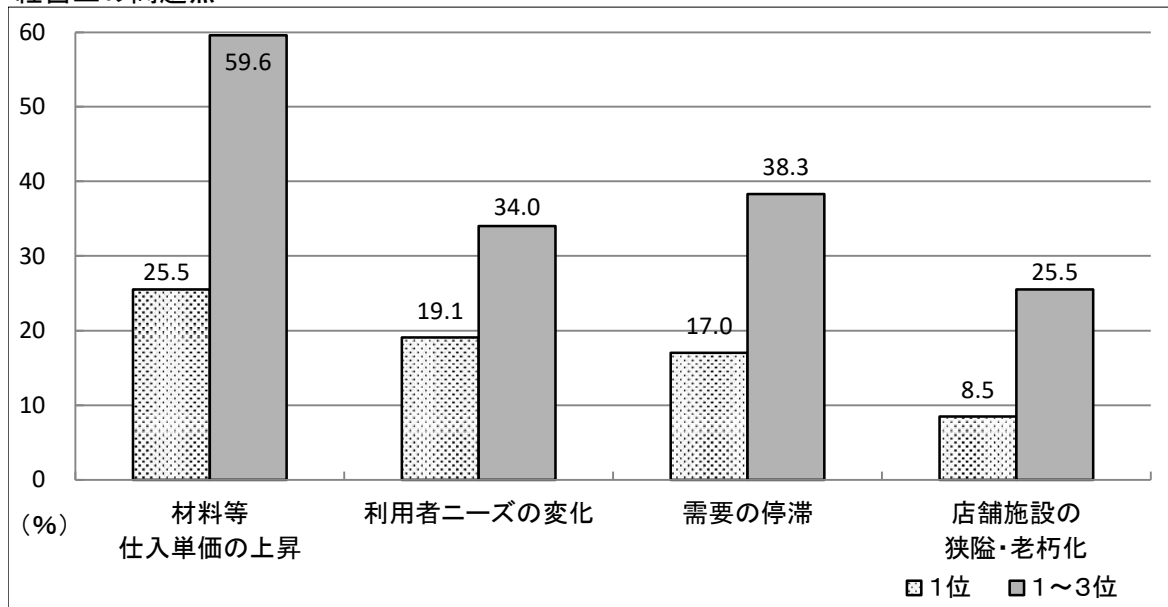
※仕入単価はプラスになるほど悪化となります。



新規設備投資



経営上の問題点



調査企業の声

- ・夏休み期間に入り家族連れを中心に客数も回復。8月初めの集中豪雨による交通網の混乱の影響を大きく受けたものの、8月後半は学生合宿もあり、8月の売上はコロナ前の80%程度まで回復している。
- ・商品券やふく割、GoToEat等もっと積極的、大々的にやってほしい。また、県外からの客が減少している。
- ・8月に入り豪雨災害の影響で客足も減少。テイクアウトの注文がほとんどで単価も低く利益もない。未だに厳しい状況が続いている。

サービス業の景況






経済産業省が毎月公表する「第3次産業活動指数」（R4年7月、季節調整値）をみると、指数値99.2、前月比マイナス0.6%と2か月連続の低下となった。サービス産業活動は、2021年12月以降、新型コロナウイルス感染症拡大の影響などをを受けて低下していたが、2022年3月に、まん延防止等重点措置が解除され、新型コロナウイルス感染症拡大の影響が緩和したことなどをを受けて、5月まで上昇が継続していた。しかし、6月はこれまでの上昇の反動などにより低下、7月は新型コロナウイルス感染症の再拡大の影響などをを受けて、生活娯楽関連サービスや「運輸業、郵便業」等が低下した。





























































こうした中、今回の景況調査をみると、DI値6項目中、仕入単価（逆指数）を除く5項目で改善傾向を示している。項目別の指数では、売上が前期▲32.7→今期▲29.4、仕入単価（逆指数）が前期63.5→今期67.4、採算が前期▲46.2→今期▲46.1、資金繰りが前期▲34.1→今期▲26.7、従業員数が前期▲11.9→今期▲7.3、業況が前期▲40.4→今期▲31.4となっている。また、先行き（R4年10-12月期）については、従業員数を除く5項目が改善或いは横這い予測となっており、県内サービス業ではいまだ水面下ながら、経営環境の幾分の持ち直しが期待される。

一方、新規設備投資については、計画13.7%に対し実施が9.6%となり、低調な投資動向となった。また、先行き（R4年10-12月期）についても、何らかの投資を考える企業ウエイトが9.6%にとどまり、投資マインドは引き続き低調のまま推移することが予想される。

最後に、経営上の問題点については、「材料等、仕入単価の上昇」（1位に挙げた企業ウエイト25.5%、1位～3位までに挙げた企業59.6%）への指摘が最も多かった。また、個別の見解として、「県外からの客が減少している」、「テイクアウトの注文がほとんどで単価も低く利益もない」、など、厳しいコメントが目立っている。

全国・福井景気動向 令和4年7月～9月（対前年同期比：DI値）

DI値	100～15.1	15～0.1	0～-15	-15.1～ -40	-40.1～ -100
天気図					
傾向	好転	やや好転	やや悪化	悪化	大幅に悪化

業種別 / 項目別	売上額	仕入単価	採算	資金繰り	従業員数	業況	
全国	全体						
	DI値	▲ 11.4	74.1	▲ 34.9	▲ 17.6	▲ 4.5	▲ 23.6
	製造業						
	DI値	▲ 4.0	82.2	▲ 30.4	▲ 15.6	▲ 4.3	▲ 17.9
	建設業						
	DI値	▲ 16.8	81.9	▲ 31.8	▲ 7.9	▲ 6.1	▲ 18.3
	小売業						
	DI値	▲ 20.9	64.9	▲ 38.7	▲ 23.3	▲ 2.4	▲ 34.5
	サービス業						
DI値	▲ 7.9	67.5	▲ 35.9	▲ 18.6	▲ 5.2	▲ 23.5	
福井	全体						
	DI値	▲ 24.5	71.0	▲ 38.4	▲ 16.5	▲ 10.1	▲ 23.8
	製造業						
	DI値	▲ 2.6	80.0	▲ 21.6	▲ 5.3	▲ 11.8	▲ 5.3
	建設業						
	DI値	▲ 16.6	87.5	▲ 41.6	4.1	▲ 4.7	▲ 12.5
	小売業						
	DI値	▲ 36.0	60.8	▲ 41.2	▲ 25.5	▲ 14.3	▲ 35.3
	サービス業						
DI値	▲ 29.4	67.4	▲ 46.1	▲ 26.7	▲ 7.3	▲ 31.4	

※仕入単価はプラスになるほど悪化となります。